

牛もコロナウイルスにかかるの？

根室南部事業センター 第一家畜診療課 獣医師 井上 剛 至



はじめに

「コロナウイルスって牛にもかかるの？どんな症状がでるの？」

このような質問を農家の皆様から最近よくお聞きします。

中国湖北省武漢市から広まったとされる新型コロナウイルス病 (Corona Virus Disease 2019: COVID-19) は、私たちの生活に大きな被害を及ぼしています。生活面では、緊急事態宣言による外出の自粛や小中学校・高校・大学の休校、マスク不足など、また経済面では、和牛枝肉・和牛子牛価格が落ち込んだり、乳価の低下も今後懸念されます。

そして、この新型コロナウイルスですが、遺伝学的特徴は似ているものの、牛のコロナウイルスとは異なるものです。例えば、人の場合、どの年代でも感染する可能性がありますが、最も多いのは40代・50代の年齢層といわれています。牛の場合でも子牛・育成牛・成牛いずれも感染しますが、多発する時期や月齢が存在します。先月の事業センターだよりのコー

ナーでも少し触れていますが、今回はもう少し掘り下げて、牛コロナウイルス病について触れていきたいと思っています。

子牛に感染する

子牛では、感染すると致死率は高く、寒冷ストレス、初乳の摂取不足、他の微生物との混合感染により、さらに致死率は上昇します。20〜48時間の潜伏期間があり、その後発症します。主な症状は黄色あるいは灰白色の水様性下痢で、食欲がなくなり下痢が続くと、重症化し死に至ります。感染は口や鼻から糞便や鼻汁が入ることと起こります。1週齢〜3週齢の子牛に多発しますが、新生子牛に感染するという点で、大腸菌やロタウイルスなどといった他の微生物の感染との区別も必要です。

成牛に感染する

成牛では、致死率は低いものの、1頭が感染すると牛群内に急速に蔓延することが特徴です。子

牛と同じように経口・経鼻感染により、3〜7日の潜伏期間の後、発症すると暗緑色あるいは黒色の水様性下痢や乳量の急激な低下がみられます。発咳・鼻汁漏出などの呼吸器症状を伴うこともありま

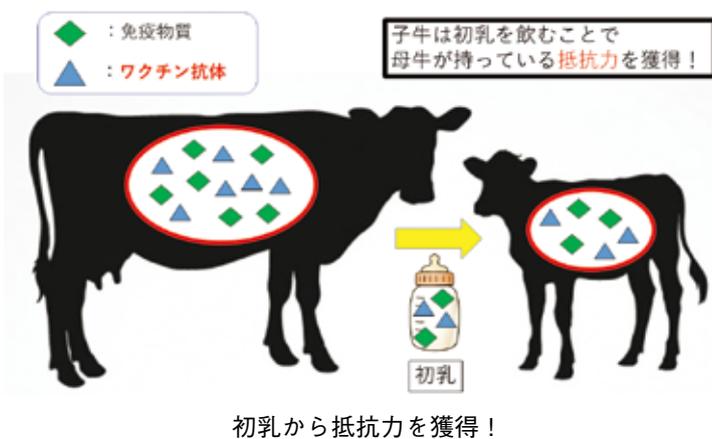
す。また、冬季赤痢とも呼ばれているため、冬季に発生が多く、下痢便に血液が混じることもありま

す。コロナウイルス病は糞便や鼻汁を用いてPCR検査で調べることができます。気になる際は獣医師に相談してください。

予防法

環境面では、ハッチ・畜舎の清掃と消毒や密飼いを避けることが予防につながり、子牛の場合は初乳の給与による乳汁免疫が特に重要です。また、その初乳にさらにコロナウイルスへの抵抗力を加えるのがワクチンです。ホルマリンで不活化したコロナウイルスを含む牛下痢5種混合不活化ワクチンで、新生子牛の下痢の原因であるコロナウイルス、ロタウイルス、大腸菌に対して予防可能です。こ

のワクチンを妊娠牛に投与することで母牛を免疫し、その初乳を生まれた子牛に与えることで、子牛を免疫することが可能です。妊娠牛に1ヵ月間隔で2回筋肉内に接種し、1回目は分娩予定日の約1ヵ月前に、2回目は分娩予定日の半月前に接種します。前年にこのワクチンを接種した牛は、分娩予定日の半月前に1回接種するだけで効果を発揮します。ただし、コクシジウムやクリプトスポ



リジウムといった寄生虫やサルモネラ菌には効果がないので注意が必要です。

